

産学連携実績紹介フォーム

1. 講座の計画から実施までの情報

教育機関名 (学校名・学部学科等)	広島市立大学情報科学部 広島修道大学経済科学部	実施 時期	2014年度(前期) (3年目:赤字は改善点)
対象学年・学期・人数	広島市立大学 3年次 120名(うち社会人科目等履修生13名) ※他学部所属の履修者1名を含む 広島修道大学 3・4年次 19名		
講座名	広島市立大学 企業活動とプロジェクトマネジメント(キャリア形成支援科目) 広島修道大学 プロジェクトマネジメント論(基幹科目・実学的専門教育科目)		
連携企業・団体	(社)PMI 日本支部 (PMI)、(株)三菱総合研究所 (MRI)、 パナソニックアドバンステクノロジー(株)、ミヨシ電子(株) 海外インターンシップ担当/ (株)NTTデータ中国、(株)NTTデータ・グローバル・テクノロジー・サービス・ジャパン		
支援・連携の種類	類型 1「教材カリキュラム開発型」 講座設計支援、講師派遣、教材・事例・演習課題の提供		
講座の概要・特徴	グローバル人材育成を目指し、PMBOKの基礎学習と英語による実践経験に基づく 経験談等を通じたキャリア形成支援科目を2大学共同で開設するもの。カリキュラム は2大学・2企業で共同設計し、教材・講師は5企業で分担する。TV会議システムを 活用した遠隔双方向授業により、企業講師の負担軽減を図る。受講人数が多く、演 習は個人演習を行う。 3年目を迎えた2014年度も、広島県の補助事業「大学間連携によるグローバル人 材育成プログラム開発・実施事業」の2年目として、グローバル人材育成を目指し、 英語による授業を増やすなど具体的な試みを行った。 (海外インターンシップ・プログラムは本講座紹介から除く)		
産学連携検討の背景	実社会で「働くこと」の意味合い・意義を学生自らに習得させるには、知識偏重では なく、産業界の講師や外国人実務家講師による実体験に基づいた講座が必要と認 識していた。		
連携の狙い、 目的・目標	プロジェクトマネジメントの基本知識(PMBOK)を教え、多くの社会人がよく経験する本 質的な問題と解決方法について経験的に得られている実社会の知見を紹介すると ともに、グローバル化する経済環境で働くと言うことがどのようなことかについて、学生 が自ら考える力を養うことを目指す。海外インターンシップ・プログラムとも直接的にリ ンクさせた講座としている。		
連携にあたっての課 題・懸念	①海外インターンシップの実施に関して、受け入れ先企業との合意の締結と学生の 財政的負担の軽減 ②学年暦・授業時間割の違いを克服する実施上の調整 ③キャリア形成支援科目としてPMBOKを導入することの学内での意義説明		
講座の位置づけ 既存講座との関係	・広島市立大学 キャリア形成支援系科目として、2013年度から3年次前期開設としており、3年次		

	<p>夏季休業期間中の海外インターンシップへと繋げてキャリア支援の体系充実を図る。</p> <p>・広島修道大学</p> <p>システム科学関係科目の3・4年次対象講座の改訂。更に、経済科学部のキャリア教育を構成する実学的専門教育科目にも該当し、情報化社会での実践力を養う。</p>
履修前提条件	特になし
授業準備と実施の体制	<p>企業講師(企業での経験豊富な大学教員を含む)が15コマの全てを担当し、教材・事例等を用意する。</p> <p>2大学共通講座なので、コマ毎に担当大学を設定して講師との連絡調整・教材確認を行なう。</p> <p>TV会議システムによる双方向遠隔授業を基本とし、教室内には講義の円滑な進行を管理する大学教員が同席するとともに、それぞれの大学の学生を管理する大学教員を配置して観察し、演習等の対応や機器の操作にTA等を配置した。</p>
成績評価の方法	<p>(広島市立大学)出席と演習課題提出 40% 期末課題試験 60%</p> <p>(広島修道大学)出席と演習課題提出 40% 期末課題試験 60%</p>

講座の構成・シラバス	単元と時間配分 (1コマ90分で実施)	演習・実習	実施担当・役割分担
	1. オリエンテーションと経済のグローバル化における企業活動	座学(遠隔授業)	PMI 講師
	2. プロジェクトマネジメントの必要性和歴史	座学(遠隔授業)	MRI 講師
	3. プロジェクトの全体像と実施組織	座学(遠隔授業)	中央大学教授(※本講義開始当時はMRI在籍)
	4. ITプロジェクトで直面する問題とは	座学(遠隔授業)	PMI 講師
	5. プロジェクトの企画とWBS	座学(遠隔授業)	広島市立大学名誉教授
	6. スケジュールの策定とPERT	座学(遠隔授業)	広島市立大学名誉教授
	7. プロジェクト進捗の把握とEVM	座学(遠隔授業)	広島市立大学名誉教授
	8. プロジェクト成果物の品質管理	座学(遠隔授業)	中央大学教授(※本講義開始当時はMRI在籍)
	9. ITプロジェクトの失敗例から学ぶこと	座学(遠隔授業)	中央大学教授(※本講義開始当時はMRI在籍)
	10. グローバルITプロジェクトの管理者に必要な資質	座学(遠隔授業)	PMI 講師
	11. コンピテンシーと求められる人材像	座学(遠隔授業)	PMI 講師

12. 現代企業のプロジェクトはグローバル	座学(遠隔授業)	パナソニックアドバンステクノロジー講師
13. インドにおけるITプロジェクトの実践(英語)	座学(遠隔授業)	NTTデータ講師
14. インド人と日本人の仕事の仕方(英語)	座学(遠隔授業)	ミヨシ電子講師
15. 海外におけるプロジェクトマネジメントの実践(英語)	座学(遠隔授業)	ケンタッキー大学講師

*

講座ならびに演習・ 実習の具体的な進 め方	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔双方向TV会議型授業において学生への発言を誘発するような講義をめざす。 ・事前に予習の課題を課し、講義開始前に予習結果を収集し、その内のいくつかを選択して発表させ、講師がコメントする。また、他の学生も質問する。
-----------------------------	---

2. 講座実施後の情報

<p>受講者の声（受講目的、修得目標）</p>	<p>第1回講義時に事前アンケート調査を実施したことにより、受講動機・目的、学びたいと考えている項目に関して次のような結果が得られた。</p> <p>回答件数：（広島市立大学109件、広島修道大学17件）</p> <p>※アンケート調査時は、履修登録の確定前</p> <p>【広島市立大学】</p> <p>受講動機・目的（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業に必要な単位修得のため ② 就職活動の準備のため ③ プロジェクトマネジメントの知識を得たいため <p>学びたいと考えている項目（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会人としての働き方 ② プロジェクトマネジメントとは何か ③ IT技術者に求められる知識とスキル <p>【広島修道大学】</p> <p>受講動機・目的（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業に必要な単位修得のため ② 自分にとって仕事とは何かを考えるため ③ プロジェクトマネジメントの知識を得たいため、就職活動に役立てるため <p>学びたいと考えている項目（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会人としての働き方 ② プロジェクトマネジメントとは何か ③ IT業界における仕事の内容、仕事とは何か、海外におけるプロジェクトの特徴
<p>受講者の感想（本講座で得られたもの）</p>	<p>第15回講義時に事後アンケート調査を実施したことにより、動機・目的と達成状況、学ぶことができたと考えている項目に関して次のような結果が得られた。</p> <p>回答件数：（広島市立大学83件、広島修道大学16件）</p> <p>【広島市立大学】</p> <p>受講動機・目的と達成状況（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業に必要な単位の修得のため（達成率100%） ② 就職活動に役立てるため（達成率約83%） ③ プロジェクトマネジメントの知識を得たいため（達成率約90%） <p>学ぶことができた項目（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクトマネジメントとは何か ② プロジェクト形式の仕事のやり方 ③ 海外におけるプロジェクトの特徴 <p>【広島修道大学】</p> <p>受講動機・目的と達成状況（複数回答・上位3項目）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 卒業に必要な単位の修得のため（達成率約86%） ② プロジェクトマネジメントの知識を得たいため（達成率90%） ③ 就職活動に役立てるため（達成率100%）

	<p>学ぶことができた項目(複数回答・上位3項目):</p> <p>① プロジェクトマネジメントとは何か</p> <p>② プロジェクト形式の仕事のやり方</p> <p>③ IT 業界における仕事の内容、IT 技術者に求められる知識とスキル、社会人としての働き方、仕事とは何か</p>
先生の評価	<p>広島市立大学:</p> <p>[良かった点]</p> <p>実社会で活躍されている社会人講師に講義を担当して頂いたため、緊張感のある講義を行えた。このことによって実社会で仕事をしている人々がどのような問題に直面し、どう解決しているかを学生が直接聞いたことは、大変有意義であった。特に対面式の講義では、その効果が高かったと認識された。</p> <p>[改善を要する点]</p> <p>講師が、学生と対面していない状況では、現場に監督者がいても、学生達の緊張感を維持することには困難性があった。画面を通して話しかける講師は、丁度、テレビカメラの向こうにいるテレビ番組の出演者のような存在であり、双方向のコミュニケーションチャンネルが準備されていても、学生は質問をしたり、自分の意見を表明することはできない。現場にいる監督者が、学生を指名しない限り、質問すら出ない。また、講義を視聴する学生間でも、他の学生の意見に対する反対意見などを述べる例もなかった。このことは、効果的な遠隔講義の実施のためには、学生達の講義に対する姿勢を変えさせる必要がある。そのような仕組みを教育プログラムの実施方式の中に組込むことが必要である。</p> <p>広島修道大学:</p> <p>[良かった点]</p> <p>実体験に基づく実務的な内容を講義内容として扱ってもらえたことや、仕事や社会や働き方に興味を持つ学生に、熱意をもって語りかけてもらえたことは引き続き良かった点として挙げられる。2大学の学生を移動させずに同時開講するために遠隔講義を併用したが、工夫すべき細かい問題があるにしても、概ね良好に授業が展開できた。</p> <p>[改善を要する点と課題]</p> <p>遠隔講義の形式を取り入れた場合、当日のトラブルを含め運用に関する問題が存在することや、講師、学生お互いが見えない状況の中で、積極的な発言を促したり、理解度を確かめたりしながら講義を進行する難しさが挙げられる。毎年少しずつ工夫を行ってはいるが(例えば2014年度は質問記入用紙を配布しておき、授業中に回収するといった授業運営を行ったコマもある)、継続して取り組むべき課題である。</p>
企業・団体による評価	<p>PMI 日本支部:</p> <p>「実践的」の狙いに沿って企業活動とプロジェクトマネジメントの関係や、好業績を上げるための行動様式(コンピテンシー)を組み込むことができたこと、遠隔授業のためのノウハウの蓄積ができたことが新たな成果であったと考える。</p>

	<p>株式会社三菱総合研究所 (MRI) :</p> <p>遠隔講義により、複数の拠点の学生に対してプロジェクトマネジメントとは何かを伝えることができた点は良かったと考えられる。課題として、遠隔拠点の学生との密なコミュニケーションを如何に実現するかを考える必要がある。</p>
<p>今後の展望 (継続に向けた課題)</p>	<p>これまで継続開講してきたことにより、講義の内容と講義法に関する事項(講義法の工夫、学生の参画度向上の方法、英語での講義の実施)などについて学べた。2014年度は、内容と講師を見直し、英語の講義を増やすなどの試みを行った。これらは、今後も継続的に検討してゆくべき課題と言える。また、中長期的な継続運用を考えた場合には、主に次の検討項目が考えられる。今後も関係者で検討を続ける予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域内における講師人材の育成 2. 多くの大学の参画 3. 講義内容の改善 4. グローバル人材育成に必要な教育内容の検討 5. 教育担当人材(特に実施責任者)の育成 6. 海外インターンシップの内容と実施方法の改善

3. 講座開設時の支援企業・団体からの情報

提供教材・コンテンツ情報	(PMI)PPT ファイルで配布用と説明用を用意する。事例は担当の IT プロジェクトケースを取り上げる。 (MRI)東京農工大にて提供している「プロジェクト管理実践特論」のスライド資料、オンライン教材、同教材に基づく教科書「演習と実例で学ぶプロジェクトマネジメント入門」および講義の実施		
提供元	(社)PMI日本支部(PMI) (株)三菱総合研究所(MRI) (右記教科書は ソフトバンククリエイティブより出版)	費用 (標準価格)	(PMI)応相談 (MRI)スライド資料およびオンライン教材は「CC by 2.1 日本」ライセンスにより無償提供、教科書は税込み 2,604 円。 講義提供は応相談
支援の目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・PMBOKのセオリーを講義するが、理論・テクニックに走らないで、パーソナルスキルを大切にしてい、自ら学ぶキャリア形成支援の一助とすることを目的とする。 ・事例は、IT・NON-IT双方の実事例とし、IT業界に拘らない広がりを持たせる。 ・100名の大人数なので演習は個人で行なうが、議論させる場とする工夫を行なう。 		
具体的な支援内容 または提供教材の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大学への講師派遣または遠隔での講義 ・教材としてPMBOKテキスト、事例、演習課題を用意 ・15コマを2社で分担するが、カリキュラムの整合性に留意した講座設計支援 ・受講人数・教室レイアウトが許すならグループ演習を組み入れることが可能(目安40名以内) ・大学側の要請・ニーズに対応して、PMBOK 基礎知識中心、ヒューマンスキル特論、グループ演習の取り入れなど、多様なカスタマイズが可能 		
講座実施における企業・団体の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の目的に則した講座設計支援 5日程度 ・講師派遣・講義 15コマ×90分(6名程度で分担) ・教材作成 カスタマイズのレベルによる ・模擬講義の聴講 1日 ・双方向TV会議システムの動作確認 1日 		
企業・団体からの推薦コメント	<p>(PMI)キャリア形成の一助とするという位置づけを具現化するために</p> <ul style="list-style-type: none"> * 企業環境・活動の変化がもたらす IT 活用の意義の理解 * プロジェクトが基本的な業務遂行の形態となることの理解 * 知識だけでは遂行できない実践能力の大切さを知ること <p>などを含めることによって、学生の動機づけや主体性の向上を図る構成になっている。</p> <p>(MRI)第一線で活躍している現場のプロジェクトマネージャ自身が講師を担当することで、迫力があり、具体的な内容を伝える講座を提供する。</p>		